特選

書初の力強さや墨光る

本町一丁目　多田和代

（評）新年に心清く書き上げられたのは、今年の目標だったのでしょうか。それとも座右の銘だったのでしょうか。たっぷりと墨を含ませた筆より生まれ出る文字に、前途洋洋たるものを感じます。（栄子）

特選

クレーン車の首折り曲げて盆休み

大藪町　是沢卓

（評）ビル建設の現場だろうか、工事はお盆で休み。首折り曲げてのフレーズが、機械の休息、現場の静寂は勿論、この季の厳しい暑さまで表現出来たところに魅かれた。（夏生）

特選

歩かねば詠まねば城の梅日和

平田町　石田そとゑ

（評）老いてなお、気力みなぎる作品。「歩かねば詠まねば」の言葉に、長い人生を歩んできた思いと強い意気込みが伝わってくる。早春の梅日和、城内の素晴らしい梅を尋ね歩く姿。句帳を手に梅の香を堪能しながら句作に励む姿が見えるようである。（治夫）

入選

薫風を生み出している大欅

高宮町　前川菅子

（評）彦根には樹令何百年と言う、欅が多く存在します。ふところの深い欅よりの風は、まるで欅自身が生み出している様に思えたのです。大樹の持つ安心感から、清清しい風の鼓動が聞こえて来るようです。（栄子）

入選

大いなる近江の一部耕せり

小泉町　菅生鈴子

（評）野も山も人も動き出して、待ち遠しかった春の到来です。「一部」と対照的に詠まれた事から、近江野の広さがより強調される仕上りとなっています。春先の近江の景色を目の当りにするようです。（栄子）

入選

人声に浮寝を解きて鴨沖へ

佐和町　大久保豊子

（評）足音を忍ばせて近づいても、すっと離れていってしまいます。話声なら尚のことでしょう。湖畔に立つとよく見掛ける鴨の様子が、簡潔にまとめられています。（栄子）

入選

塗椀に海老の食みだす雑煮かな

日夏町　寺村澄子

（評）普段は大事に仕舞われている塗物の椀に、正月気分が味わえます。椀から大きく食み出す海老にも目出度さが感じられ、仕来りを守り伝える事が如何に大切かを、思い取る事ができます。（栄子）

入選

花の昼角立ててゐる金平糖

原町　森　ふみ子

（評）角立ててゐるの表現が、いぼ状の突起のある御存知の砂糖菓子のカラフルな可愛いさを逆に巧みに強調した。時恰も桜満開の春の日　麗らかな季節だ。（夏　生）

入選

梅咲きて路地裏の黙ゆるみけり

芹橋二丁目　大　野　ゆう子

（評）普段通る人も少ない路地、その奥にひっそりと梅の古木。春の訪れと共に開花を待つ人が日々増えてゆき、狭い路地も芳香で包まれているのだろう。（夏　生）

入選

亡き夫に入選通知花八つ手

鳥居本町　寺　村　美　恵

（評）何に応募されていたのだろう。奥様も知らなかったかも。応募された時には健在だった御主人、入選発表までの期間の長さ、通知を受取った奥様の改めて感じた淋しさなど、ドラマを展開させる句に仕上げた。季節も寂寥を感じさせる。（夏　生）

入選

棚田にも四温のきざし影生まる

稲里町　田　辺　好　子

（評）四温というと春の暖かさを感じるが季語としては「冬」。しかし耳に届く四温という音に春の陽を待つ心を感じる。平地より条件はきっと厳しい棚田なら尚更だろう。（夏　生）

入選

麗かや三百号の句報綴づ

米原市　伊　部　正　子

（評）三百号とはすごい。心からの拍手を送りたい。記念すべき三百号。綴る時の思いの中には、創刊以来の苦楽の歴史が詰まっている。「麗かや」の季語が効いていて、晴れ晴れとした心と良くぞここまで続いたと言う思いが確と表れている。（治　夫）

入選

成るやうに成ると思へば天高し

米原市　日　比　陽　子

（評）おおらかで明るい句。作者の思いに共感したい。世の中、悩んでも始まらない。「成るやうに成る」とは自然の道理に全てを任せて、自由に生きること。肩の荷がおりたこの心境こそが、正に「天高し」である。天気も心も晴れ晴れ。（治　夫）

入選

故郷はダム湖の底の桜かな

西今町　小　沢　三　男

（評）かつて住み慣れた故郷は、桜のきれいな、人情豊かな村だったのだろう。今は、ダムの底で何も見えないが、今咲き誇る桜を見ていると、脳裏には、昔懐かしい集落が、そして、桜満開の中での花見の宴などが甦ってくるのだろう。切々たるふるさとへの想いが伝わってくる。（治　夫）

入選

花吹雪この世のいのち散るやうに

稲枝町　山　本　正　雄

（評）「花吹雪」の句は多い。散る様子をさまざまなことばで表している。しかし、この句の「この世のいのち」とは大げさ過ぎるほどの表現ことばである。しかし、この表現が鋭い。今までの桜吹雪の概念を越えるものである。（治　夫）

佳作
彼方より神馬来るやう春の波
高宮町　細田　惠貢子

佳作
春愁ことばの海におぼれけり
東近江市　河﨑　章

佳作
手にのせて色をほおばる桜餅
長曽根南町　堀本　隆子

佳作
法灯の内陣深く若葉冷
城町二丁目　福原　芳江

佳作
山粧う言の葉美しき国に住み
稲枝町　谷口　清香

佳作
桟橋の朽ちて余寒の波尖る
松原一丁目　金沢　湖吉

佳作
地下足袋の人力車夫に青葉風
日夏町　圓　敬子

佳作
川風のなすまま太る鯉幟
川瀬馬場町　西川　雪子

佳作
三百年経し盆梅の香に憩ふ
栄町一丁目　野村　代志子

佳作
紅梅の狭間に溶けし空の青
野田山町　善利　幸子

佳作
城濠に手を延べるかに花万朶
芹橋二丁目　伊藤　正子

佳作
濃淡の若葉溢れる野山かな
河原三丁目　加藤　サダエ

佳作
白れんの両手合わせてふくらみし
城町二丁目　児玉　富江

佳作
春一番玄宮園を揺さぶりぬ
奈良県生駒市　北川　久子

佳作
案内板指でたどって花見客
中央町　辻　榮津子

佳作
過去は地へ未来は空へ冬木立
地蔵町　馬場　美也子

佳作
謝辞をよむ幼(おさな)の声や寒の葬
長浜市　勝木岩松

佳作
勿体無き程の梅の香ひとり占め
本町二丁目　中島暉枝

佳作
雨音も春呼ぶメロディトタン小屋
平田町　堤　みどり

佳作
蝉の羽化乾くいとまの静寂かな
西今町　松本いづみ

佳作
城町はどんつき多し桃の花
芹川町　馬場雄一郎

佳作
湖抱(いだ)き山に抱(いだ)かる花の里
長浜市　樋口満智子

佳作
天地みな緩ぶ氣配に春立つ日
古沢町　大橋しず

佳作
湖東路の光あつめて山笑ふ
松原二丁目　松林秀子

佳作
冬の虹城と伊吹を大またぎ
清崎町　村田惇一

佳作
梅の香に触れたる風が通りすぎ
地蔵町　佐古徳子

佳作
そこまでと誘はれ堤青き踏む
馬場二丁目　清水はる

佳作
春浅しマイウェイ響く耕耘機
犬上郡豊郷町　伊香とし子

佳作
ランドセル背中はみ出す新入生
下稲葉町　上田タツ子

佳作
早苗田の列の乱れを風正す
甘呂町　日和田喜美子

佳作
ランドセル万朶の花を潜り行く
日夏町　寺村房子

佳作
干拓の畦延々と曼珠沙華
米原市　成宮義雄

佳作
菱餅の切り口揃ふ母の技
松原町　中島房女

佳作
湖に向く仏百体春うらら
高宮町　西河琴

佳作
囀にリズム合わせて畑仕事
馬場二丁目　西村節子

佳作
山笑ふ恋の甘さをのせる風
稲里町　勝見政恵

佳作
石垣をなだれて濠へ花万朶
西今町　秋口大門

佳作
雪の原空の青さを秘めてをり
東近江市　松本ちずる

佳作
酸素ボンベ命の綱や青き踏む
東近江市　澤村恵美

佳作
雁来紅空美しき日なりけり
薩摩町　髙橋貞子

佳作
仏飯の芯まで乾く余寒かな
米原市　西村てる子

佳作
寒鯉のゆったり浮上ひと呼吸
米原市　田辺仁美

佳作
東風（こち）と共吉報届くグランドに
佐和町　大橋洋夫

佳作
淡海へ青麦の畝みな真すぐ
小野町　小野和子

《総　評》

部門の異る文芸が一堂に会する祭典は県の文学祭以外では彦根市民文芸の他に類を見ない素晴しい発表の場と思います。

最近テレビでバラエティ番組ではありますが俳句が採り上げられ、笑いと毒舌の中でも俳句を作るポイントをしっかり伝えられて、俳句をやってみようかなと思われる人が増えているのは嬉しい事です。今回の作品にも新しい息吹を感じられる句が目につき、選にも迷いました。三人の選者各々の詠み方、読み方に個性があるのは当然ですが、選の封を切ってみますと不思議と同じ句に評価が集まり上位に記されている句がそれに当ります。

部門別の投稿では一番多い俳句ですが例え一人でも投稿数の増えるのは嬉しい事で、自分で作る文芸の中では一番入り易いと思われる俳句に親しんで頂ける人の増える事を願い、次年度も御参加をお待ちしております。

北田夏生

選者吟

なほざりの庭の潤ひ姫女菀　北川栄子

騙されることも子育て四月馬鹿　北田夏生

揺れやまぬ柳透かして天守閣　藤田治夫